

様式第2号（第10条関係）

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称

平成27年度第1回弥生地域振興審議会

2 開催日時

平成27年9月10日（木） 19時00分から21時00分まで

3 開催場所

弥生振興局 2階 第2会議室（佐伯市弥生大字上小倉 656 番地 1）

4 出席者

会長：西條隆洋 副会長：矢部加奈

委員：甲斐隆二・久寿米木重生・染矢庄治・高司武・矢野輝人・山口美恵子

（委員10名中8名出席）

（市職員）

弥生振興局長：丸山初彦

地域振興係：河野国広（課長補佐） 岩崎悟己（総括主幹）

出口幸徳（副主幹） 前田賀庸（事務局）

市民サービス係：高司昌彦（総括主幹）

（計6名）

5 公開、非公開の別

公開

6 傍聴人数

0人

7 議題

「佐伯市人口シミュレーション案」及び「佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略  
たたき台」について

8 審議の内容

諮問事項である「佐伯市人口シミュレーション」及び「佐伯市まち・ひと・しごと  
創生総合戦略たたき台」についての審議を行った。

## ○「佐伯市人口シミュレーション案」について

「佐伯市人口シミュレーション案」については、国と県の人口ビジョンを勘案して提案された数値であることから、妥当であるとの回答を得た。

## ○「佐伯市まち・ひと・しごと総合戦略たたき台」について

まず、事務局より「まち・ひと・しごと創生」の概要と「佐伯市まち・ひと・しごと創生たたき台」について説明を行い、委員より意見を求めた。

※以下は、会議の抄録であり、実際の発言と言い回しが異なる部分がありますので、ご了承下さい。

【会長】 それでは、先ほど事務局より今回の諮問内容についての説明がありましたが、委員の方から、何か意見等がありますでしょうか。

【委員】 今、弥生地域は人口が増えていますけれど、もともと居た人たちがどんどん子供を産んで増えているのではなくて、旧市内や本匠、直川などから転居してきて増えているわけで、佐伯市全体として見たら減少している。もちろん、人口が増えると言う事はそれだけ魅力ある整備がされているということで、同じように市外、県外から佐伯市に転入してもらうような魅力ある環境作りをしていってほしいんですが、子育てや生活環境が整備されたから安心して若者が子供を産めるかというところではなくて、基本目標の1に書かれている「個人が置かれている社会経済状況」、つまりこれなんです。まず仕事が活性化しなければ、人も街も活性化できない。このたたき台の中には「企業誘致」という言葉が入っていませんが、企業を誘致して雇用の場を確保するという事は大事な事だと思います。今の時代に企業誘致をする事はなかなか難しいんでしょうけれども、やはり一番に取り組んでいかなければいけないことなので、是非「企業誘致」という言葉を盛り込んで積極的に推進していただきたい。

【会長】 たたき台の中に基本目標が4つ掲げられていますが、人口が減って来て何かに取り組もうというときに、4つ全てに取り組む必要があるのかと、会社経営をするときには、選択集中で全力を挙げて取り組む場合が多いので、

委員が言われたように企業誘致をして雇用の場を確保しようという選択集中もありなのかなと思います。結局、雇用があって経済が回って行かないと、何をするにも難しいので、まずは目標を「しごと」に絞って、KPIを経済的指標にして改善を行うのもいいのかなと思います。

【委員】以前は大人数の家族がいて、働きに行く時はおじいちゃん、おばあちゃんが子供を見るということが多かったんですけど、今はそれぞれ結婚して別々に暮らしている世帯が多くて、子供ができた時に誰が面倒を見るんだろうと思う事があるんですよ。たとえば出産して1年は育児休暇を見ましょと、それから職場復帰する際にはきちんと面倒を見てくれる場所を作りましょと、そうした事が確立すれば、安心して子供が産めるようになると思うんですね。私の周りでも、両親と同居しているような家庭では、周りのサポートがあるので、子供の病気でも習い事でも色んな事に相当手間暇をかけています。夫婦だけの世帯では、なかなかそうしたサポートを受けることができないので、次に子供が欲しいと思った時に二の足を踏むこともあるのかなと。現在高齢者にはデイサービスをはじめとした手厚いサービスがたくさんあると思いますが、同じように子育て世代にもそうしたサービスの手を差し伸べることができれば、仕事を辞めなくても安心して子育てができるようになるのではと思います。今は第3子から保育料が無料になるような制度がありますが、例えば第2子からにするとか、困った時にすぐ対応できるようなサポートを行うとか、もっと子供を産んで育てやすいような環境作りとアピールができればいいと思います。

【委員】今、委員さんが言われたようなことで、昔の町村では出産祝い金などで子供を産むほど重宝されるような制度があったのが、市町村合併後はそうした魅力がどんどん減らされているような気がする。たくさん子供を産んだり、都会から移り住もうと思った時には、その自治体が行っている取組というものは一つの魅力になるから、その魅力が負けていけば他の市に定住しようかということにもなるので、若者や移住を考える人たちに魅力ある定住制度を考えていてもらいたい。

【会長】豊後高田市がそうした定住者向けの取組を先進的にやっていて、保育園や小学校、中学校に近いところに子育て世代向けの造成地を整備して、近隣自治体から呼び込みを図ったり、シングルマザー・ファザー向けの結婚祝い金を創設したり、聞いたらそこに住みたいくなるような取組をどんどんやっているところです。できれば佐伯市も基本目標を聞いたらそこに住みたいくなる

ような画期的な取組を盛り込んでいければと思います。

【委員】 私は旧市内から弥生に引っ越してきたんですが、弥生は治安や自然に恵まれていて、とても過ごしやすいと思います。自分の周りでも、弥生に家を建てたいと言う人が多いので、弥生は他の地域には無い魅力があるのかなと思います。個別目標で「子育て支援サービスの充実」と一くりにされると、何も言う事が無くなってきますし、今の佐伯市にどのくらいの支援サービスがあるのかわかりませんが、地域に特化した、弥生独自のサービスがあってもいいんじゃないかと思います。

【会長】 確かに個別目標を大枠でくくられると、意見全部がその中に集約されるので何も言う事が無くなってしまいます。たとえば「特色ある学校づくり実践指定校の割合」にしても、じゃあ何を持って特色とするか、これも曖昧になってますし。

【委員】 出産、子育てに関して言えば、行政サービスとか地域ぐるみの子育てとか、出産祝い金や待機児童の解消とか色々あるでしょうけど、いくら行政や地域の支援が充実したとしても、親が子育てに満足するのはどこかということじゃないかと思います。今の親たちは、あなた任せ・人任せ・行政任せの子育てになってるんじゃないかなと。私たちの子育てを振り返ってみると、親は子が一人立ちできるように育てることに満足を覚えたように感じています。このたたき台では、出産や子育ての方向性が人任せの目標になっている。若い親たちがどういう風な子育てをしていけば、子育てに目標や生きがいが見いだせるか、自分の子育てに満足感を覚えるか、そうした事が必要になってくると思います。自分の子育てに生きがいを見出して、立派に子供を育てて行けば、それこそ子供が増えるに連れて満足感も増大していくはず。もちろん、行政や地域の支援も必要でしょうが、そこに偏ると子育ては全部行政が支援してくれると思ってしまう。その辺のバランスをうまく取った総合戦略にしなければいけないのかなと思います。

先ほど特色ある学校づくりが話題に出ましたが、一番悪いのは全国学力テストですね。客観的に数字が出てその数字を良くするために真剣になるんですから、特色も何もあったものではない。学力を上げるためにどうやって取り組めばいいか、そればかり考えてしまうものですから。私はまだ学校教育に関わっていますが、学校の先生は学力テストの目標や取り組みに対して教育委員会への報告やそこからの指導に追われています。せっかく素晴らしい自然環境があっても、なかなか関わらせる時間がない。子育てにしても

学校教育にしても、求めるものや目標が、これでいいのかなと思う事がよくあります。

【委員】 農業の新規就農についてですが、弥生地域の新規就農者は他に比べてほとんどいないのではないのでしょうか。KPIで「農林水産業における新規就業者数」があげられています、農業で食べていけるための新規就農はなかなか難しいので、小規模でも続けられる農業や楽しく続けられる農業に支援をしていくべきではないのでしょうか。弥生地域には「道の駅やよい」がありますし、地域の農業従事者は自分が作った物がそこで利益になることに楽しみを見出していたような気がします。現在、道の駅やよいの出荷者が少なくなって、昼には野菜が売り切れて無い状態もよく目にします。出荷者が減少したのは、高齢で農業を止めた方もいるでしょうし、割に合わないから止めた人もいるでしょう。新規就農支援も必要とは思いますが、現在農業に従事している方がより長く続けられるように、以前農業をしていた方が、また農業に従事できるような取組が大切なのではないかと思います。野菜を道の駅に出せば売れるのだから、そこを確保するための組織なり取組支援をもっと力を入れていけばいいと思う。それが曳いては地域の活性化につながると思うんです。農業で生活するのは経済的に厳しいから、兼業農家への新規就農支援でもいいと思うんです。農業を続けてくれるのであれば。

【丸山局長】 私は2カ月ほど駅長代理として道の駅やよいに関わらせてもらっていますが、弥生地域は道の駅を中心に観光を考えなければいけませんし、それだけの魅力を持った施設だと思っています。問題はその魅力をどうやって発揮していくかというところで、それは地域がどれだけ道の駅に絡んでいけるかということも一つの課題として捉えています。出荷協議会の方も売れ行きは好調で、夕方にはもう売り切れているという状況が続いています。ただ、作り手が少ないものですから、出荷物を確保するという事に頭を悩ませています。地域の出荷者を増やせば、当然収入も入ってきますし、地域の活性化にもつながりますので、企画・観光を含めて何らかの起爆剤となるように持っていきたいと考えています。

【委員】 佐伯市は海や山、川に恵まれていて、食料の自給率なんかはほぼ100%地産地消で賄えるくらいあるんじゃないかと思います。今になって思えば自分の所で育った物、取れた物を食べれると言うのは本当に幸せなんじゃないかと思います。自分が作り育てた物を食べているというのが本当の意味で安心・安全なんじゃないかなと思います。これは統計があるのかわかりま

せんが、佐伯における食料の自給率を見て行けば、それが増えたか減ったかで第一次産業が発展している、衰退しているがわかるのではないのでしょうか。

【会長】 そう考えると、農林水産業の新規就業者数を KPI とするよりも、農林水産業にどれだけの人に従事しているかを指標にした方が、佐伯市における農林水産業がどれだけ減ったか増えたかが分かりやすい。今の指標だと仮に新規就業者が 1 人増えても、止めた人が 5 人いれば、指標では増えてるけど全体としては減少しているわけですから。

【委員】 各地域にはどんな地域資源があるのか、例えば弥生では数年前から生姜の生産をしましろうと振興局を中心に声かけをしているわけですが、そういう地域資源を掘り起こして小規模でも農業を続けられる支援を行えば高齢者も年金にプラスして収入を得ることが出来るわけですし、地域も活性化していくと思います。生姜なんかそうですけれど、地域の特産品を掘り起こして、新たに従事する場合は種生姜の補助とか、生産を振興する政策を行わないと。地域資源を決めました、ではみなさん活用してくださいでは、なかなか前に進んでいきませんよ。せっかく地域資源を掘り起こしても、それを活用できる状態まで持っていかなければ無駄になってしまうので、その辺の施策もきちんと考えてもらわないと。

【会長】 次に「佐伯市への人の流れを促す」という基本目標の 3 ですが、どうもこれが分かりにくいような気がします。観光で産業を成り立たせるのは非常に難しい気がしますし、補助金に頼らない事業件数や地域に貢献していると感じる市民の割合を KPI にするのもいかなものかなと。

【委員】 佐伯を想う心や誇りだけでは定住促進には結びつきにくい。佐伯を想う心を持った人はたくさんいると思いますが、就きたい仕事が無かったりして優秀な人材が県外に流れていっている。これは非常にもったいないと常々感じているので、やっぱり仕事大事だと思う。

【丸山局長】 確かに我々の会議でも、この基本目標は分かりにくいといった質問が出てきて、それで（起草中）ということになっているのだと思います。

【委員】 東京や大阪なんかは大分県人会や佐伯市出身者が集まる会合があるでしょうから、そうしたところでアピールすれば、将来帰って来る時の情報や選択肢として活用できるかもしれませんね。

【会長】次に、「街・浦・里が支え合い、切磋琢磨する」という基本目標なんですが、佐伯市全体として街・浦・里が切磋琢磨することはいいんですが、もっと小さな範囲、たとえば振興局単位であったり、小・中学校単位であったり、そうした小さなところから互いに切磋琢磨して上に盛り上がっていったほうがいいのではないかと思います。これは今まで佐伯市が行ってきた施策とは逆行するのかもしれませんが、振興局の活性化を行うという個別目標を提案してもいいのかなと思います。

【委員】基本目標4の個別目標1に「地域の個性」や「特性をいかした」とありますが、それぞれの個性や特徴は誰が把握しているのでしょうか。実際にどこがするのかわかりませんが、こうした目標を掲げるのであれば、予算や権限などでもっと振興局に力を入れるべきだと思います。たとえば弥生や蒲江の個性や特性なんかは、地域の職員や振興局が知っているんだから、分からないものを無理に本庁がやろうと思ったって限界があるし、いいものはできないと思う。各地域でこうした事業をしようと思う、予算はこれだけ確保したから、これで地域の個性を尊重し、特性をいかしたまちづくりを進めてくださいと。わざわざこうした会議を開いて総合戦略を作ろうとしているのだから。戦略には載せました、でも予算と権限はありませんでは、一体何をしたいのかとってしまう。

【委員】弥生は合併しても地域全体の体育祭などが行われていますし、以前は町長杯の野球やソフトボールなんかでいつも賑わっていたような気がします。また、郡大会を中心に町民が熱心にスポーツに取り組んでいましたが、合併後はそうしたスポーツ大会、選抜や一部の選手とかではなくて、一般の住民が気軽に参加できるような大会が減っていると思います。弥生独自の目標でも構わないので、地域の個性としてスポーツ振興を入れてもいいのではないかと思います。

【会長】あと空家対策についてなんですが、他の地域で空家についてのトラブル、例えば泥棒が住みついたとか、望ましくない購入事例などを良く耳にしますので、空家の利活用については具体的な条件や方法を行政の方で検討してもらいたいと思います。老朽化した市営住宅を取り壊して空家を活用するとか、移住した人のご家族には「ふるさと納税」をお願いするとか。それから、「利便性の高い生活交通体制の構築」というところで、弥生のコミュニティバスについてですが、このコミュニティバスの活用方法について是非考えてもら

いたい。今のコミュニティバスの活用方法は、住民の声が反映されているとは思えないんですね。いつも幽霊バスになっている。やりかたによってはもっと利用したい住民はいると思うんです。住民が主体となって、住民の声に沿ったような形でコミュニティバスを走らせてもらいたい。

【事務局】コミュニティバスの活用については、私どもの仕事になりますので、色々と検討を行って改善したいと思います。ただ、制限なくコミュニティバスの利用拡大を推進していくと、どうしても民業圧迫というところに直面してしまいますので、その辺を考慮しながら住民、利用者の希望に沿った形での利用促進に努めていきたいと思っています。

【事務局】皆さんにお知恵をお借りしたいんですが、弥生地域は合併前の人口を維持しています。それは市内からの転居者が大多数なのでしょうが、それでも今は若い世代の方や子供たちが地域にいます。10年後、20年後にこの子供たちが地域に残るためには、また帰って来たいと思うようにするにはどうすればいいか、聞きたいんですが。

【委員】私は蒲江から弥生に来て30年ほどになります。始めは母親なんか嫌がっていたんですが、そのうち何も言わなくなった。それはなぜかという地区の人たちが暖かく迎えてくれたからなんですね。その当時は地区の会合なんか年に何回もあって、みんなが顔を合わせる機会も多くて、会合も生き生きしていたんですね。他の地区も多分そうだったと思いますし、お互いあそこの地区には負けまいと思ってたから、地区対抗の行事なんか人も集まるし、盛り上がってたんだと思います。今、地区の会合なんか年に1回しかない。そうした地区の集まりが極端に減った。以前は地区要望にしてもみんなが集まってたくさん議論して、それを町長に持って行って、町もなんとか応えようとお互いに努力していた。でも今はそうした地区の集まりも減り、要望を出しても予算が無ければ実施してくれないだろうという感じになってきて、市長ふれあいトークがあるから出席をお願いしても、なかなか出ようと言う人がいない。佐伯市に区がたくさんあるでしょうけど、その一つ一つの区が区長、役員を中心に活性化をしていけば、おのずとこんない所から出るつもりはないよ、という風な考え方になっていくのかなと思います。結局、自治体は小さな区の集まりで成り立ってるんですから、区を大切にしないと。

【委員】私が住んでいる地区では、2年に1度盛大な盆踊り大会を開催してます。その中で色んな催しをするんですが、全部責任者を決めて地区全体で祭りを盛



り上げるようにしています。みんな仕事があつたり色々大変でしょうけど、一生懸命みんなで祭りを行ったあとは、必ずそこに絆が生まれます。20年ほど前からですか、もともこの祭りを始めるきっかけが、子供たちに楽しい思い出を作ってもらおうということだったんですが、子供たちが将来地区から出るのはしょうがないと思ってます。それは進学だったり、就職だったりしますから。ただ自分たちが育ってきた地区はこんな祭りがあって、すごく楽しかったと思ってもらうことで、いつか地区に帰って来たいと思ってもらえればいいかなと。若者に外に出るなど言うのは酷な話しかれど、自分が生まれ育った地区で良い思い出をたくさん作ってもらって、外に出た時に「やっぱり地元がいいな」と思ってもらうことが、将来地元に戻って来るきっかけであったり、地元への定住につながるのかなと思っています。

【会 長】 それでは他に何かありませんか。

【委 員】 大胆な発想をどんどん出してほしいということでしたので、実現が厳しいとは思いますが、言わなければ始まらないので。今全国的に賑わっているテーマパークにディズニーランドとユニバーサルスタジオがありますが、こうした施設を誘致してみるのも一つの方法かなと思います。そうすれば雇用も生まれますし、人もたくさん来る。こうした夢のある取組をしてみてもいいのではないかなと思いました。

【委 員】 最後にいいですか。この総合戦略なんですが、上乗せ交付金をもらうために10月末までに作らないといけないのはわかるんですが、目的はそうじゃなくて、本気で取り組んでもらいたい。そのための総合戦略にしてもらうようお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

【会 長】 それでは「佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略たたき台」については、今回みなさんから頂いた意見や要望などを付した上で、答申したいと思えます。本日はおつかれさまでした。

【委員一同】 おつかれさまでした。

## 9 会議の資料名一覧

平成27年度第1回弥生地域振興審議会議案書

(内容) ①佐伯市人口シミュレーション案について

②佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略たたき台について

10 問い合わせ先

担当課 佐伯市弥生振興局 地域振興課  
地域振興係（担当：前田）  
電話番号 46-1111（内線 36）